環境目標Ⅳ「環境の保全・創造に寄与する人を育てます」

基本方針　Ⅳ－１　環境意識の啓発

市民一人一人による環境美化活動、市による環境の保全・創造に関する取組や環境に関する最新の情報の提供と普及を図るための取組について説明します。

施策①　環境美化の推進

１　環境美化の推進

（１）校区花いっぱい事業

地域内の美化や緑化の推進、住民同士の交流を図るため２８の校区連絡会が校区花いっぱい事業に取り組みました。

・植栽日：５月２４日（ベゴニア）

（２）「フラワーキーパー」事業

美しいまちづくりを推進するため、広く市民からボランティアを募集し、フラワーキーパーとして登録し、道路などに季節に応じた花を植栽しました。

・植栽場所：星川通線の一部、市役所通線の一部、
　　籠原小学校西門前
・植 栽 日：１１月１６日



（３）ゴミゼロ運動

環境に対する意識の向上、環境美化の推進、地域コミュニティの強化のため、熊谷市コミュニティづくり市民協議会によるゴミゼロ運動が展開され、多くの市民やグループ、企業等の参加が得られました。

■実施日及び参加団体
第７９回（５月１８日～６月２３日）　２６８団体（２７，６６０人）
第８０回（１０月１２日～１１月１７日）　２４６団体（２４，２３２人）

（４）河川の清掃活動

■第２２回荒川の恵みと熊谷を考える集い
・主催等：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会が中心となり、多くの市民活動団体や関係団体が参加し、ゴミ拾いを通じて自然の大切さを学ぶ目的で荒川河川敷で清掃を行いました。
・実施日：１１月１０日
・参加者数：９６２人
・実績：可燃ごみ３８０ｋｇ、不燃ごみ５０ｋｇ、粗大ごみ１６０ｋｇ、合計５９０ｋｇ

■荒川河川敷の清掃
昭和４７年から中央漁業協同組合熊谷支部の事業として組合員が行っており、昭和５６年から児童・保護者協力の上、年２回実施しています。清掃区域の一部は熊谷荒川緑地（国土交通省から占用許可を受けている緑地）にあたっています。
※令和元年度の清掃活動は雨天のため中止となりました。

・主催：埼玉中央漁業協同組合
・協力：市、市教育委員会、荒川上流河川事務所

■荒川桜堤の清掃
・実施月：５月、１２月　・実施団体：桜ファンクラブ

■利根川の河川清掃
・実施月：５月　・参加者数：４５５人　・参加団体：利根川の沿線の９自治会

■別府沼公園の清掃活動
自然が残され、希少な水生生物が繁殖している別府沼公園の清掃活動が地元の自治会員等により行われました。
・実施日：１２月１日
・参加人数：３８０人
・内　容：別府沼の水を干し、地元自治会等による沼地・公園のごみ拾いが行われました。



２　環境美化のモラル意識の啓発

（１）自転車等の放置防止対策

自転車等の放置防止対策として、立哨指導を年間２１０回実施するとともに、熊谷駅周辺の放置整理区域内に放置された自転車等を年間４９回（５８６台）撤去しました。
また、平日（晴天日）の午後６時を基準とした熊谷駅周辺放置整理区内の自転車等の放置台数は１４８台で、前年度に比べ約３０%減少しました。

（２）犬のふんの適正な処理対策

啓発用プレートを申請１１９件に対し６３７枚配布したほか、市報等で「愛犬を散歩する時のルール」を周知するなど、飼いのマナー向上のための啓発に取り組むとともに、注意を促しました。



（３）「飼い主のいない猫」対策事業

公益財団法人どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業（行政枠）」を利用し、さくらねこ無料不妊手術チケットを市民及びボランティア団体に交付しました。併せて、捕獲器の貸出も行いました。
・さくらねこ無料不妊手術チケット申請件数　２１７件
・さくらねこ無料不妊手術チケット利用枚数　５５７枚
・捕獲器貸出件数　６９件（７３台）



施策②　環境情報の発信

１　環境情報の提供による意識の啓発

（１）環境情報の発信

市報やホームページ、ＳＮＳ、熊谷駅構内のデジタルサイネージ、地域の情報・サービスを提供する地域ポータルサイト等の各種メディアを活用し、市民が必要とする環境情報を広く周知しました。

■市報による情報発信
　毎月１日に市の様々な情報をお知らせするために、市報を発行しており、６月の「環境月間」や１２月の「ストップ温暖化」の特集のほか、「エコライフフェア」「リサイクルフェア」などの環境啓発イベント情報、「水質測定の結果」「みどりのカーテン作成」「節電」「使用済みインクカートリッジの回収等」など、市民生活に関係する環境関連情報を多数掲載しました。

■ホームページによる情報発信
　市ホームページ内に特設サイト「熊谷市暑さ対策バンク」を開設し、本市の先進的な暑さ対策について発信しました。また、「キッズページ」内に「環境のことを考えよう」というページを設け、子どもたちに向けて情報発信をしています。
　また、地域の周辺情報を積極的に広報するために、地域ポータルサイトとして、ホームページ「あついぞ.com」の運営管理を行いました。

■ケーブルテレビ番組放送事業
　ケーブルテレビＪ：ＣＯＭ熊谷・深谷の番組「くまがやくらしの情報局」で、「ペットボトルエコステーション」「暑さ対策事業」「エコドライブ推進月間」「生ごみ処理機」など環境に関する情報を発信しました。

■ＦＭ-ＮＡＣＫ５番組放送事業
　ラジオ番組を通じて、熊谷市の暑さ対策等を情報発信しました。
　ＦＭ-ＮＡＣＫ５「GOGOMONZ」「おいでよ！熊谷！ラグビーロードスペシャル」の放送
　内容：デジタルサイネージ、階段アート、冷却ミスト等、市の暑さ対策事業

■メール配信サービス「メルくま」及びSNSによる情報発信
　環境に関する情報を携帯電話やパソコンにメール配信しました。また、市公式フェイスブックやツイッターでも環境に関する情報を発信しました。

■デジタルサイネージによる情報発信
　環境に関する情報を熊谷駅改札前のデジタルサイネージに表示しました。

■環境に関する年次報告書の作成
　環境基本計画に基づく年次報告書として「環境白書」を作成して、市の環境の現状に関する情報の提供を、継続して行いました。

施策③　環境に配慮した行動の普及啓発

１　身近な自然環境と触れ合う機会の確保

（１）自然観察会・自然体験の実施

■里山ウォーキング
①里山クリーンウォーキング
・実施日：１２月２１日　・参加人数：４４人
・内　容：江南地区の歴史や文化に触れながら秋の里山を散策し、あわせて環境保全のために清掃活動を行いました。
②春の里山ウォーキング
・内　容：江南小江川地区１０００本桜の景色を眺めながら春の里山を巡りました。


里山クリーンウォーキング

※令和元年度は新型コロナウイルスの感染拡大のため、中止となりました。

（２）水辺に触れ合える機会の創造

■夏休み水辺観察会

・実施日：７月３０日
・参加人数：１３人
・内容：元荒川で水質調査や水中生物等の観察を行い、身近な自然環境に関する理解を深めました。


夏休み水辺観察会

■河川に関する情報発信

国・県が主催する「川の愛護活動」や講演会などのポスターやチラシの配布により、河川に親しむためのＰＲをしています。

２　資源を大切にする行動の啓発

（１）くまがやエコライフフェア

・目　的：市民・事業者・市が環境保全の重要性を認識することを目的とし、イベントを通じて意識啓発を図る。
・テーマ：環境にやさしいまちづくり　広がれ　つながれ　エコライフフェア
・主　催：くまがやエコライフフェア実行委員会
・開催日：５月２５日、２６日
・会　場：八木橋百貨店（８階カトレアホール内）、熊谷市コミュニティひろば、荒川大麻生公園
・参加・協賛団体数：６２団体
・来場者数：延べ約５，３００人
・主なイベント：

【八木橋会場】
環境ポスター作品展示、幼稚園児による作品展示（成田こども園）、研究発表『熊谷の去年の天気と温暖化』（自然科学クラブ）、環境保全活動紹介（桜ファンクラブ）、環境ＤＶＤ上映会、エコ体験教室、企業・団体等の環境活動紹介や作品展示など

【コミュニティひろば会場】
エコカーの展示・試乗、合併処理浄化槽の紹介、リサイクルフリーマーケット、ゴーヤ苗の配布及び壁面緑化の奨励、省エネ機材の展示、企業や市民団体等の環境活動の展示など。


八木橋会場


コミュニティひろば会場

（２）くまがや環境賞



【くまがや環境賞とは】

環境の保全と創造にかかる自主的な活動に特に顕著な功績があり、広く市民の模範となる者を表彰することにより、環境保全意識の普及及び高揚を図ることを目的とします。

５月２５日開催のくまがやエコライフフェアの中で、表彰式を開催しました。

■令和元年度受賞者

・小江川自治会

平成２２年度から、市民協働「熊谷の力」事業として「小江川地区１０００本桜事業」を開始し、毎年１００本の植樹を１０年間継続し、平成３１年３月、１０００本の桜の植樹を達成。

この活動を通じて、地元の荒廃林を桜の名所に作り替えるとともに、地域の環境保全に努め、地域の絆づくりにも寄与されました。

・NPO 法人エコネットくまがや

打ち水による暑さ対策を平成２０年から１１年間継続して実施。

打ち水を通じて地球温暖化防止に努めるとともに、平成２９年からは、星川を中心としたまちなかのコミュニティの形成に寄与されました。

今年度は、市民協働「熊谷の力」事業として新たに「打ち水サポーター」を養成し、中心市街地の活性化にも貢献されました。

（３）「環境美化推進員」制度

環境美化推進員（４６４人）について、継続して委嘱を行い、ごみの適正排出の指導及びごみの減量化、資源化の推進などの普及啓発を図りました。

（４）水道事業の啓発

水道事業に対する理解と協力を得るため、年２回「水道だより」を発行しました。また、水の大切さを知り、意識を高めてもらうため、小学生を対象とした施設見学会の開催（１３回、延べ参加者数８８０人）や、水道週間（６月１日から７日まで）に合わせた東部浄水場での懸垂幕掲出のほか、ペットボトル「くまがやの水」をうちわ祭や会議等で配布するなどの広報活動を行いました。

★　環境指標と進捗状況

◎：2027 年度の目標値を達成している。　○：2022 年度の中間目標値を達成している。　△：計画策定時の現状値より改善している。
×：計画策定時の現状値より悪化している。　－：現状値がない等により評価をしていない。

No.	環境指標	単位	計画策定時現状値（H28年度）	計画策定時中間目標値（R4年度）	目指す方向（R9年度）	現状値		評価
						H30	R1	
401	フラワーキーパー事業参加者数	人	295	350	350	344	169	×
402	ゴミゼロ運動参加者数	人	60,037	60,500	61,000	53,779	51,892	×
403	河川清掃活動参加者数	人	2,228	2,500	3,000	2,000	1,797	×
404	くまがやエコライフフェア参加・協賛団体数	団体	54	65	70	64	62	△

■進捗状況

基本方針Ⅳ－１「環境意識の啓発」では、「くまがやエコライフフェア参加・協賛団体数」については改善していますが、「フラワーキーパー事業参加者数」、「ゴミゼロ運動参加者数」及び「河川清掃活動参加者数」については悪化しています。それぞれの活動が活発になるよう広く呼びかけを行います。

基本方針　Ⅳ－２　環境教育・環境学習の推進

市民一人一人が環境に配慮した行動を実践できることを目指した、環境教育・環境学習の推進に関する取組について説明します。

施策①　環境教育の推進

１　子供たちの環境教育の推進

（１）児童環境教育推進事業「キッズＩＳＯプログラム入門編」の実施

家庭で子供たちが中心となって環境にやさしい生活に取り組む環境教育プログラム「キッズＩＳＯプログラム入門編」を市内の全ての小学校６年生を対象に実施しました。

これは、ＰＤＣＡサイクルに基づき、子供が主体となり、初めの１週間に電気・ガス・水道・ごみの現状をチェックし、どうすればそれらが減らせるのか計画を立て、次の１週間で取り組み、結果をチェックし、感想とこれからどうすれば良いのかを考えるプログラムです。

日常生活の中で、子供たちのマネージメント能力を育成するとともに、家庭での温暖化対策の推進につながります。

・取組人数：１，４６１人
・効果：約３．０４９ｔの二酸化炭素の発生抑制

（２）子供たちの環境保全の意識啓発

■荒川流域一斉水質調査
・主催：ＮＰＯ法人熊谷の環境を考える連絡協議会
・実施日：６月３日
・参加人数：２９人
・内容：荒川水系（５河川）及び福川の水質調査をＮＰＯや立正大学生を中心に実施しました。結果は、ＮＰＯ法人荒川流域ネットワークに報告し、マップに表記するとともに広報を行いました。

■河川環境学習会
・主催：ＮＰＯ法人熊谷の環境を考える連絡協議会
・実施日：６月３日、１１月４日
・参加人数：７０人（子ども含む）、３０人（子ども含む）
・内容：熊谷市子どもセンターの「ウイークエンドサイエンス」と連携し、和田吉野川で地元自治会等の協力のもと、生き物調べや周辺の植物観察などを行いました。

■子ども自然科学教室
子ども自然科学教室を開催し、環境や自然に対する子どもたちの学習を推進しました。
・開催回数：１０回
・参加人数：３８８人

（３）ごみの散乱防止と３Ｒを進めるためのポスターコンクール

環境省が募集する「３Ｒ促進ポスターコンクール」に市内小学校に応募を呼びかけ、環境について考えるきっかけを作りました。

（４）環境ポスター作品展

身近な環境問題から地球規模の環境問題まで一人一人が環境保全のためにできることを考え、行動に移す契機となることを目的として実施しました。

また、エコライフフェアにおいて入選作品の展示と表彰式を実施しました。

・応募点数：３，１４０点（市内の小学５、６年生）
・展示数：２８点（最優秀賞１点、優秀賞５点、奨励賞２２点　※入選作品は左記含め１００点）
・展示期間：５月２５日から２６日
・展示場所：八木橋百貨店８階カトレアホール



（５）「こどもエコクラブ」の活動支援

「こどもエコクラブ」は、子どもたちの環境保全活動や環境学習を支援することを目的としており、市内では全２９小学校（環境委員会など）と自然科学クラブの３０団体（令和２年３月末現在）が登録しています。なお、３０団体合計のメンバー登録数は４，１１８人と埼玉県内で最も多く、市町村別では全国でも３位と環境学習に対する関心の深さがみられます。

各クラブは、こどもエコクラブ全国事務局から提供される情報を環境学習に活用し、自然科学クラブにおいては、くまがやエコライフフェアにおいて「太陽エネルギーをキャッチしよう」をテーマに研究発表及び展示をしました。今後も「こどもエコクラブ」の活動を支援し、環境教育の推進を図ります。

（６）農業体験活動を通しての環境意識の啓発

熊谷市みどりの学校ファーム推進協議会（構成：市、教育委員会、農業委員会、校長会、教頭会、JA くまがや）が主体となり、市内全小中学校で「みどりの学校ファーム」に取り組み、農業体験活動を通し、自然への感謝、環境や食物に対する関心や理解を深め、実際に栽培し、喜びを体験しました。

（７）食を通しての環境意識の啓発

学校給食センターでは、献立に地場産農産物を積極的に取り入れるとともに、「ふるさと給食の日」を毎月設定し、地場産農産物を使った郷土料理を提供するなど食による環境意識の向上を図りました。また、児童・保護者の給食センター施設の見学を受け入れることで食及び環境への関心を深めました。

（８）リサイクル工作教室の開催

廃品を利用した工作を行うことで資源の再利用とごみ減量の意識を育てるために、市内３箇所の児童クラブを訪問し、児童を対象としたリサイクル工作教室を開催しました。

・会場：西児童クラブ、第３籠原児童クラブ、第２江南南児童クラブ　・参加者：児童７２人

（９）リサイクル工場見学会の実施

リサイクルへの関心を高めるために、子どもたちを対象とした工場見学会を実施しました。

・見学先：中央化学㈱騎西工場　・参加者：１２人

（１０）親子エコ・クッキング教室の開催

食材を無駄なく調理して家庭から排出される生ごみを減量する方法を参加者を通じて家庭や学校、地域へ普及させるために、小学生と保護者を対象とした親子エコ・クッキング教室を開催しました。

・会場：東京ガス料理教室　・参加者：２７世帯　５９人（全４回合計）

（１１）学校ビオトープ

学校ビオトープづくりは、子供たちに身近な自然とのふれあいや、環境教育、環境学習を進める上で非常に効果があります。校内に水辺などをつくることにより、周辺の自然とのネットワークづくりに寄与しています。子供たちが身近な自然との関わりをもつことができるよう、維持管理は児童の手で実施しました。

■ビオトープ一覧表

学校名	構　成	植生等	活用状況	特　徴
熊谷西小学校	池	メダカ･トンボ･ガマ等	理科や生活科、総合的な学習	地域の協力（おやじ倶楽部）
佐谷田小学校	地下水活用による川、ムサシトミヨ増殖池	ムサシトミヨ･フナ･メダカ･ヨシ･ガマ等	理科や生活科、総合的な学習など	「ムサシトミヨをまもる会」による指導
久下小学校	地下水活用による川、ムサシトミヨ増殖池	ムサシトミヨ･トンボ･アメンボ･タニシ･ヨシ･ガマ等	理科や生活科、総合的な学習など	地域住民の協力による保全活動 「ムサシトミヨをまもる会」による指導
熊谷南小学校	池	ガマなどの水性植物 メダカ、ヤゴ等	理科の学習など	地域及び保護者の保全協力
中条小学校	池	トンボ･ハス等	理科や生活科、クラブ活動など	昔あった植物や生物を取り入れること
吉岡小学校	池	メダカ･コオロギ･アメンボ･トンボ･ガマ･ヒガンバナ等	理科、クラブ活動など	
別府小学校	護岸された池に土を入れビオトープに転換	トンボ･カエル･ヒメシロアサザ･ミズアオイ等	総合的な学習の時間など	「別府沼を考える会」による指導
三尻小学校	池	トンボ･カエル･ミクリ･ガマ等	理科や生活科など	地域の協力（おやじ倶楽部）
妻沼小学校	池	水生昆虫、メダカ等	メダカの飼育	天然のメダカ（黒メダカ）の繁殖池
熊谷東中学校	地下水活用による川、ムサシトミヨ増殖池	ムサシトミヨ･コイ･トンボ･水草等	委員会活動･理科の学習など	「ムサシトミヨをまもる会」による指導

（１２）学校等の取組事例

ア　みどりのカーテンの設置

全ての小・中学校及び公立幼稚園にみどりのカーテンを設置しました。

カーテンを設置したことにより教室内の気温が下がるとともに子供たちの省エネに対する意識、温暖化防止への意識が高まりました。

イ　ホタル鑑賞会への協力

久下小学校、江南北小学校、江南南小学校では、各地域のホタル鑑賞会に向けて、地域と連携しホタルについての学習会を実施しています。

ウ　環境教育主任会

各学校の環境教育主任が集まり、市内全ての小中学校で取り組んでいる「学校ファーム」について情報交換を行い、収穫する喜びを体験すること、地域の方や専門家と協力すること、授業中で身近な環境から自分にできることを考えることの必要性など、様々な取組の充実を話し合いました。

エ　水生生物調査への参加

水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するため、また環境問題への関心を高めるため、

国土交通省と環境省が共同で、一般市民等の参加を得て水生生物調査を実施しています。
本市からも、熊谷東中学校・江南中学校の２校が参加し、河川愛護の重要性を知る貴重な経験をしました。

オ　ユネスコスクール

佐谷田小学校、久下小学校では、世界中の学校との交流を通じて、情報や体験を分かち合い、 地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指す取組であるユネスコスクールに登録しています。
なお、佐谷田小学校ではムサシトミヨの保護及び繁殖活動、地球温暖化、外国の文化・世界遺産、地域の文化財や伝統文化を学ぶ活動を行いました。

カ　ムサシトミヨの保護及び繁殖活動

久下小学校、佐谷田小学校、熊谷東中学校では、「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」の指導のもと、ムサシトミヨの保護及び繁殖活動に取り組んでいます。毎年１０月頃繁殖数調査をし、２月頃には「熊谷市ムサシトミヨをまもる会」主催の「繁殖報告会」において、繁殖の成果を発表しています。
令和元年度には、取組の成果が高く評価され、「埼玉・教育ふれあい賞」を３校合同で受賞しました。

施策②　環境学習の推進

１　生涯学習活動における環境学習の推進

（１）環境教育講座及び市政宅配講座

市職員等が講師となり、指定した場所へ出向き、市政について講演する「環境教育講座・環境施設見学会」及び「市政宅配講座」により、最新の環境情報を提供しました。
市政宅配講座における環境分野の講座　　令和元年度実施回数：１７回
市政宅配講座における環境分野の講座数（外部団体実施含む）　：２４講座

（２）消費生活講座

公民館講座等においてエコ生活等をテーマにした講座を１２回開催して、延べ２８１人の方が参加し、環境問題への関心と理解を深めました。
テーマ：省エネ、居住空間の改善

（３）生涯学習講座

直実市民大学や各公民館の生涯学習講座において、環境学習の取組が行われました。

■直実市民大学共通学習

・テーマ：「稲の品種改良と熊谷の農業」　（参加人数：７７人）
「埼玉の気象について」　（参加人数：８９人）
「比企丘陵の郷土共創」　（参加人数：８１人）
「ムサシトミヨのふるさと熊谷」　（参加人数：８５人）

■中央公民館開設学級・講座での環境学習

・講座名：「熊谷の自然と環境」　（参加人数：３４人）

■地域公民館実施の環境学習

実施公民館	講座名	参加人数
熊谷東公民館	エコバック講習会（１）新聞紙編	１６人
熊谷東公民館	エコバック講習会（２）フェルト編	１４人
肥塚公民館	環境ポスターと映像のコラボ　熊谷の環境を考える	３４人

宮町公民館	環境施設見学会	１４人
宮町公民館	家庭でできるごみの減量とリサイクル	１３人
成田公民館	みどりのカーテンの作り方	１５人
荒川公民館	家庭でできるごみの減量とリサイクル	２７人
大麻生公民館	エコドライブのすすめ	３５人
星宮公民館	グリーンカーテン作り	１３人
大里公民館	新聞エコバック	１４人
江南公民館	環境を学ぶ　エコドライブのすすめ	２７人

★　環境指標と進捗状況

◎：2027 年度の目標値を達成している。　○：2022 年度の中間目標値を達成している。　△：計画策定時の現状値より改善している。
×：計画策定時の現状値より悪化している。　－：現状値がない等により評価をしていない。

No.	環境指標	単位	計画策定時現状値（H28年度）	計画策定時中間目標値（R4年度）	目指す方向（R9年度）	現状値		評価
						H30	R1	
405	学校における児童環境教育に取り組んだ児童数※キッズISOプログラム取組児童数	人（累計）	22,645	32,000	40,000	25,483	26,944	△
406	こどもエコクラブに登録した団体数	団体	30	35	40	30	30	△
407	環境講座の受講者数	人	599	800	1,000	388	480	×
408	地域大学と連携した環境公開講座数	回	2	2	3	0	0	×

■進捗状況

基本方針Ⅳ－２「環境教育・環境学習の推進」では、「環境講座の受講者数」及び「地域大学と連携した環境公開講座数」について悪化しています。環境教育講座や消費生活講座などに多くの市民が参加し、環境や省エネに対する意識の高さがうかがえますが、目標値には達成しておらず、講座の充実やＰＲの必要性があります。

基本方針　Ⅳ－３　協働による環境活動の推進

市民、事業者、環境団体、市等が、お互いの特性を活かし役割を分担し行動しながら、地域の環境資源を保全・創造し、将来の世代に引き継いでいくための取組について説明します。

施策①　環境活動団体や地域での環境活動の支援

１　地域の環境活動の支援

（１）彩の国ロードサポート制度

活動団体と県と市の３者がパートナーとなり、快適で美しい道路環境づくりを進める取組で、３者で確認書を取り交わし、活動団体が清掃美化活動を行い、県と市が活動を支援します。

４１団体（令和元年３月３１日現在）が活動を行っており、県はボランティア保険の加入や表示板の設置を、市は回収したごみの処理の支援などを行っています。

（２）自治会等が回収したごみの無料回収

自治会等が「ゴミゼロ運動」及び「地域活動」により回収したごみの無料回収を実施しました。

実績：ゴミゼロ運動　９７件　　地域活動　５５件

施策②　環境活動のパートナーシップの育成

１　交流の場の創出

（１）市民活動支援センター

市民活動支援センターは、環境関連団体を含む様々な分野の市民活動団体、非営利で公益的な活動をしている方たちやこれから活動しようと考えている方たちのための拠点施設となっています。

・管理者：特定ＮＰＯ法人　ＮＰＯくまがや（指定管理）
・登録団体数（令和２年３月末現在）：２６２団体

（２）第１２回ニャオざねまつりの開催

市民活動団体の活動をＰＲする場として、公益社団法人熊谷青年会議所が主催する「TRY フェスタ！！」と同時開催を行い、市及び市民活動団体の良さをアピールしました。

・主　　催：ニャオざねまつり実行委員会
・実 施 日：７月６日
・場　　所：熊谷スポーツ文化公園
・来場者数：約１０，０００人　・参加団体：４４団体



２　協働による取組の推進

（１）市民協働「熊谷の力」事業

市民活動団体と市が協働で事業を実施して、新たな発想や手法によって、まち（地域）の課題を解決していきます。市民協働「熊谷の力」事業は、

①市が考える地域課題（市が考えるテーマに対して事業提案を行うもの）
②市民が考える地域課題（市民活動団体が市へ自由なテーマで事業提案を行うもの）

の２通りの方法で協働事業の候補を募集します。

令和元年度は、４事業を実施しました。

また、令和元年度実施事業の審査を行い、２事業が採択されました。

（２）熊谷市民公益活動促進事業はじめの一歩助成金

「地域社会に貢献する活動を始めたい」「今、行っている公益活動を広げたい」団体を支援する制度です。より多くの市民活動が市内で活発に展開され、熊谷市を魅力と活力ある都市としていくため、市内における市民活動団体の設立と新たな事業の実施に対して助成金を交付します。

助成メニューは、次の２通りです。

①スタート助成金

・NPO・ボランティア団体を立ち上げたい。

・立ち上げた団体で事業を始めたい。

②チャレンジ助成金

・すでに活動している団体が新しい事業を始めたい。

・すでに行っている事業の拡大をしたい。

令和元年度は、提案のあった７団体の事業に対し助成金が交付されました。

（３）民間資金による市民環境活動の支援（熊谷環境基金）

自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着など、広く環境問題に自主的に取り組む市民活動を支援し、地球環境の保全に寄与するため、太平洋セメント㈱が出捐（ｼｭﾂｴﾝ）し設立された、公益信託「熊谷環境基金」の１６回目の助成が行われました。

この公益信託は熊谷市民や、主に熊谷市内での自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着への取組を行う団体に対する助成です。今後も基金が有効に活用され、自主的な環境保全活動の環が広がることが期待されます。

■スマートハウス建築または購入に対する助成

・助成対象：スマートハウスを建築または購入した個人に対し、２５万円/件を上限に助成

・助成件数：１２件　・助成金額：３，０００，０００円

■自然環境保護団体などに対する助成

・助成対象：地球環境の保全を目的として、自然環境保護や資源循環型経済社会システムの定着への取組などを行う団体に対し、一般事業は２０万円、環境整備事業は１００万円を上限に助成

・一般事業助成団体数：１５団体　　・一般事業助成金額：２，５６１，０００円

■進捗状況

基本方針Ⅳ－３「協働による環境活動の推進」では、市民協働「熊谷の力」事業や熊谷市民公益活動促進事業（はじめの一歩助成金）により、これまで環境に関する取組が実施されてきました。これらの事業は、市民との協働による環境活動を推進する上で大変有効であり、今後、関係団体に利用を促すとともに、そこで行われた活動を継続していくことが重要になります。

熊谷市環境審議会委員名簿（令和2年7月現在）

種類		委員名	職名等
1号	学識経験を有する者	たかむら　ひろき 髙村　弘毅	立正大学名誉教授
		すずき　ぱーかーあすか 鈴木　パーカー明日香	立正大学地球環境科学部 講師
		あらい　ちあき 新井　千明	公益財団法人埼玉県生態系保護協会 熊谷支部長
2号	市議会議員	みうら　かずいち 三浦　和一	熊谷市議会議長
		いしかわ　ひろみ 石川　広己	熊谷市議会環境産業常任委員会 委員長
3号	市民及び市内の関係団体代表者	あきやま　まり 秋山　茉里	公募委員
		さとう　ひろあき 佐藤　広明	公募委員
		でい　　てつじ 出井　哲司	熊谷市自治会連合会 副会長
		やぎ　しんいち 八木　伸一	一般社団法人 熊谷市医師会 理事
		ごとう　もとひこ 後藤　素彦	熊谷商工会議所常議員
		あおき ときよ 青木 登喜代	くまがや農協女性部連絡協議会 会長
		たかはし　たかこ 髙橋　孝子	NPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会 会員
		くりはら　かずえ 栗原　和江	くまがや共同参画を進める会　理事
4号	関係行政機関の職員	きざき　まさし 木崎　正司	埼玉県北部環境管理事務所　所長
		やすの　みつお 安野　三夫	熊谷警察署生活安全課　課長
5号	その他市長が必要と認める者	―	